

◆実践校名 泉大津市立上條小学校, 和泉市立緑ヶ丘小学校, 和泉市立光明台北小学校  
岸和田市立朝陽小学校, 熊取町立東小学校, 阪南市立朝日小学校

◆主題名 法やきまりを守る ◆道徳の内容 C-規則の尊重

◆ねらい

信号無視をしていた男の子に注意したかおりが、自分もルール違反をしてしまい、その場面を男の子に見られる場面を通して、どんな場面でもルールを守ろうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

◎ 中心的な発問

心臓がドキドキしたままのかおりさんは、どんなことを考えていたのでしょうか。

◆ 本時の展開

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導入	◎ 日常で生活している中で、どんなルールがあるかを考える。	<p>みんなの生活の中で、どんなルールがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の中でのルール</li> <li>・社会のルール</li> <li>・家の中にあるルール</li> <li>・交通ルール</li> </ul>	○ 自分の生活の中にあるルールについて考えることで、資料への導入を図る。
展開	◎ 資料を読む。 ◎ いくつかの場面で、かおりの心情を考え、話し合う。	<p>「お姉ちゃん、絶対守るもんは守る。」と言った時、かおりはどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなが信号無視をしていても、ルール破ってはいけない事だと男の子にわかってほしい。</li> <li>・ ルールは守らないといけない。</li> <li>・ 私はきちんと守る。でも少しくそをついてしまった。ばれないからいいだろう。</li> </ul> <p>ルールに反して逆走を続けているとき、かおりはどんなことを考えていただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ここだけのことだが、何だか気になる。</li> <li>・ このくらいのルール違反は大丈夫だろう。</li> <li>・ 周りに迷惑をかけていないから大丈夫だろう。</li> <li>・ やめたいとは思うけど楽なのでやめられない。</li> <li>・ 信号が長いし、他のルールは守っているし、ちょっとくらいいいだろう。</li> </ul>	<p>○ 教員が範読する。</p> <p>○ 近所の男の子に注意するかおりの行動から、かおりの人柄をおさえる。</p> <p>○ 他のルールを守っていても、少しだけならルール違反をしていいのかを考えさせたい。</p> <p>○ 一度ルールを破ってしまうと元には戻りにくいという人間の弱さについて考えさせたい。</p>

		<p>心臓がドキドキしたままのかおりさんは、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子に注意したのに、自分ができていない。</li> <li>・小さなことでもルールは守るべきだった。</li> <li>・ルール違反はいけないこととわかっていたのに繰り返してしまった。</li> <li>・「ちょっとぐらい」という考えは良くなかった。</li> <li>・自分はルールを守ってきたつもりだったが、守れていなかった。</li> </ul> <p>自分なら、かおりさんと同じ場面になった時にどのように行動しますか。実際にやってみましょう。</p>	<p>○男の子に注意し、私はしないと約束したにもかかわらず、ルール違反をしてしまうかおりの心を考えさせたい。</p> <p>○ちょっとした事と思っていたことが、男の子との約束をきっかけに、ルール違反に変わらないことに気づくかおりの心の変化を考えさせたい。</p> <p>〈評価〉 どんな場面でもルールを守ろうとする道徳的実践意欲・態度をもつことができたか。自分のこととして考えることができたか。</p> <p>〈評価方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートへの記述</li> <li>・発言内容</li> <li>・ロールプレイによる発表</li> </ul> <p>〈評価を生かした支援〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発言において、理由も問いながら、「ちょっとぐらい」と言う気持ちでとった行動がルールを破っていたことに気づかせる。</li> <li>・一度ルールを破ってしまった後、続けて破ってしまう気持ちを自分の生活体験と結び付けて考えさせる。</li> </ul>
<p>終末</p>	<p>◎本時の学習を振り返り道徳的価値を深める。</p>	<p>今日の学習で考えたことを書きましょう。</p>	<p>○感想を発表し合い、道徳的価値への気付きや自覚をさらに深められるようにする。</p>

## ◆研究のまとめ

### ○授業実践について、チームとしてのまとめ

(成果)

- ・自分の身の回りにある「ちょっとぐらい・・・」がよくあることだとわかったようだった。
- ・ルールを守ることについて、深く考える機会をもてた。
- ・グループ学習を取り入れたことで、自分のこととして考えることができた児童が多かった。
- ・学習後、自分でルールを意識しようとする姿が見られた。

(課題)

- ・自分のこととして考えられるように方法を工夫する必要がある。  
例：ワークシートの使い方を工夫する。(書く量や時間、書かせるタイミングなど)  
グループを活用して話し合う。

### ○道徳の評価についての提言

道徳については、評価規準がはっきりしないため評価が難しい。そこで、学習したことをもとに、自分におきかえて深く考えることができたかどうかということの評価することを提案する。

そのため、小集団での話し合い活動を取り入れたり、ワークシートを活用したりするなど、いろいろな方法を今後模索していかなければならない。

そして、学習した跡(ワークシートやノート、板書の写真など)を年間を通して、継続的に残していき、児童の成長を把握していかなければならない。

## 【各校での実践の記録】

### ◆実施学年（ 6年 ）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

中心発問「ドキドキしたままのかおりさんがどんなことを考えていたのでしょうか。」を考えたときに、はじめは、「見つかってしまった。」「はずかしい。」「うそをついてしまった。」というような後悔や反省の気持ちを言う児童が多かった。追加の発問で、「なぜ後悔しているの。ここのルール無視は、みんなやっているのに。かおりさんは他のルールは全部守っているのに。」と聞くと、「ちょっとしたことでもルール違反はルール違反。」「みんながやっているからと言ってやってはいけない。」「ルール違反のことだけでなく、少しの嘘が大きなことになった。」という答えが出て、ちょっとぐらいという気持ちでの行動がルール違反になることを考えることができた。

さらに、見られたことでやっと気づいたかおりさんは、男の子に会わなければずっとルールをまもっていないのか、誰も見ていなかったらルール違反にならないかという内容を、ペアで話し合い、発表してもらった。この発表から、どんな場面でもルールを守ろうとする道徳的実践意欲や態度をもつことができたかを評価することができた。

#### ○成果と課題

授業のあとの休み時間、一人の児童が廊下（靴をぬがないといけない場所）を運動靴で歩いていた。クラスの子たちが「それ、ルール違反やで。」と言うと「ちょっとぐらいいやん。」とこたえたが、まわりにいたみんなから、「さっき道徳でやったやん。」「ちょっとぐらいでもルール違反やで。」と注意され、すぐに靴をぬいでいた。クラスでその話をすると、ちょっとぐらいでもルール違反、見てないところでも守らないとあかんということが身の回りによくあるということを児童たちは実感していた。授業の感想のワークシートでは、「誰も見ていなくてもルールを守る。」や「ちょっとしたことでもルール違反になるので気をつける。」「『ちょっとぐらい、みんなしてるし』のほんの少しの気持ちで大きな事故をまねいてしまうかもしれないと考えると、やっぱりルールは守らないといけないと思った。」等のことを書いている児童が多かった。

道徳的態度はワークシートから評価した。ワークシートだけでは、本当に自分のこととして考えられたか少し疑問だったが、休み時間に注意していた児童が多数いたので、その行動面からも評価することができた。今後も、どんなときもルールを守り行動していけるか見守っていきたい。また、ワークシートだけを見て評価するのではなく、子どもたちの行動面、授業中の意欲等を見て評価することを意識していきたい。





## ◆実施学年（6年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

最高学年としての意識をもち、1～5年生の手本になろうという意識付けができた。また、誰もが経験したことのあるルール違反だったので感情移入がしやすかったのか話し合いが活発になった。子どもたち自身、交通ルールは守るべきものであり、さらに学校にも右側通行というルールもあるので、ルールについての理解はある程度あった。しかし、わかっている、ついでに…という本音がちらほら出て、なんのためにルールがあるのかをもう一度考える良い機会になった。

また、評価に関しては、話し合いに積極的に参加し、発表できたか、そして今回の内容について発表はできなくてもしっかり考えることができたかをアンケートしたことで、書くのが苦手な子、話すことが苦手な子でも適切な評価をすることができた。

#### ○成果と課題

自分の意見を言いたい子どもが多く、友達の意見を「聞いて考える」というのがなかなかできない。一方、ワークシートや発言も自由なので、どんなことを言っても大丈夫と安心して全員が発表することができた。

最高学年としての意識や責任を道徳の時間に限らず、普段の生活でもその行動が少しずつみられるようになってきた。

実践校名（和泉市立緑が丘小学校）

## ◆実施学年（6年）

### ◆評価を位づけた授業実践の分析

#### ○評価の実践（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

中心発問にいく一つ前の発問「ルールに反して逆走を続けているとき、かおりはどんなことを考えていただろう。」のところで、「本当にここだけやから・・・」や「車も誰もいないか計算しよう。」などの意見が児童の中から出てきた。気づかせたかった「ちょっとぐらい」という気持ちからとった行動であることをここで押さえることができた。

中心発問ではワークシートに書かせ、発表の際は友だちの意見に付け足しの意見や似ている意見、ちがう意見など、子どもの意見につなげて発表させていった。また、ワークシートをそのまま読んで発表させるのではなく、友だちの意見を聞いて共感したり、自分の意見が変わったりした場合は、その新たな意見を自分の意見として発表してほしいと児童に声かけをした。普段は発表の際、一部の児童の手しか上がらず、席の順に指名して発表させるのが、今回は児童の約7割が自ら進んで挙手をし、意欲的に発表する姿が見られた。

#### ○成果と課題

##### 中心発問から出た児童の意見

「男の子にばれて、こわい。」

「もう顔を合わせられない。」

「どうしよう。今度会ったとき、どんな顔したらいいのか分からない。」

「男の子、ごめん。」

「注意したのに、自分はルールをやぶってしまっただけじゃない。」

「注意したのに自分がわたっていたら意味がない。」

「人のことを言っていて自分でやっていない。」

「自分もやっているのに、なんで注意したんやろう。」

「小さいことでも守らないといけないんだなあ。」

「次からはルールを守ろう。」

自分もルールを破っていた

ルールを守ろう

中心発問で、「自分は悪いなあ。」と発言する児童がいた。そこで、どこが悪かったのかを問いかけることで、「男の子にルールを守ると約束したのに、交通ルールを守らなかったこと」や「小さいことでも守らないといけないなあ。」「次からはルールを守ろう。」などという意見が出てきた。かおりがとった行動はルール違反に変わりないことに気づかせることができた。

##### 児童の振り返り

- ・「ちょっとぐらい」がないように自分もがんばっていこう。
- ・小さいことでも守っていこうと思いました。
- ・今日から自転車は左がわ通行でわたろうと思った。
- ・たまに信号無視をしていたので、これを学習して少なくしようと思いました。

振り返りから、ほぼ全員が自分のこととして考えることができていた。また、交通ルールにおいて道徳的実践意欲をもつ児童がたくさんいたが、交通ルールだけにとどまっている児童が多く見られた。





◆実施学年（6年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

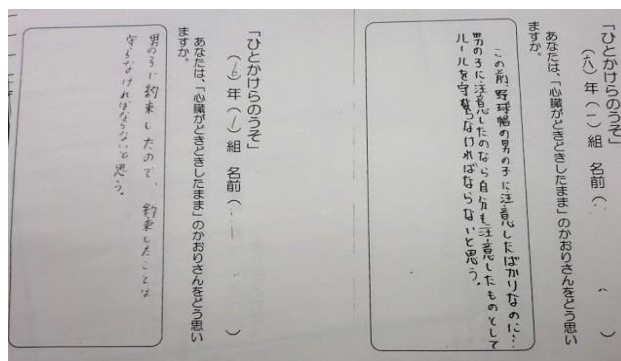
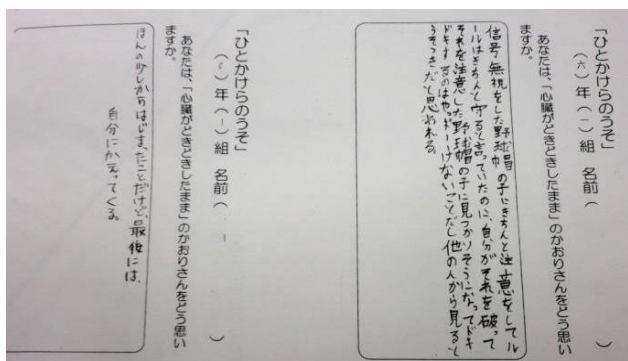
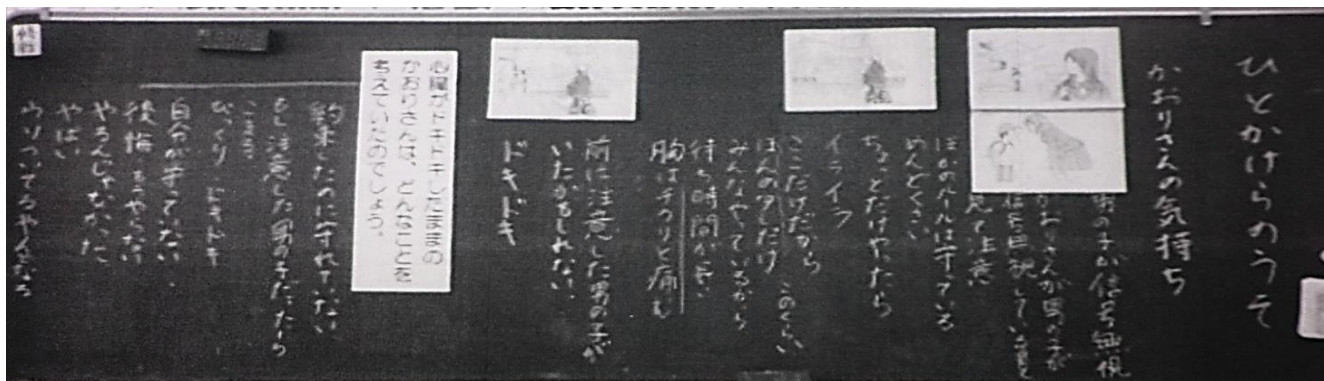
中心発問の場面の発言の様子や内容から

- ・かおりの心臓はドキドキしていると発言する子が多かったが、「ドキドキしたまま」とお話には書いてある。そこで、指導者が、「ドキドキ」と「ドキドキしたまま」の違いを取り上げ、ドキドキが続いていることに気づかせ、ドキドキが続いている間にかおりはどんなことを考えたのかを話し合わせた。
- ・この時に、グループでどのような会話をしているのかを記録することで、授業では出ない発言を知ることができた。

○成果と課題

- ・小集団で意見交換をさせ、自分の考えを言え、他の人の考えをしっかりと聞くことができていたか。
- ・自分に置き換えて考えることができたか。（自分だったら・・・）
- ・振り返りの様子から、ワークシートに、かおりさんのことをどう思うかを書くことができたか。また、それを発表することができたか。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）



## ◆実施学年（6年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

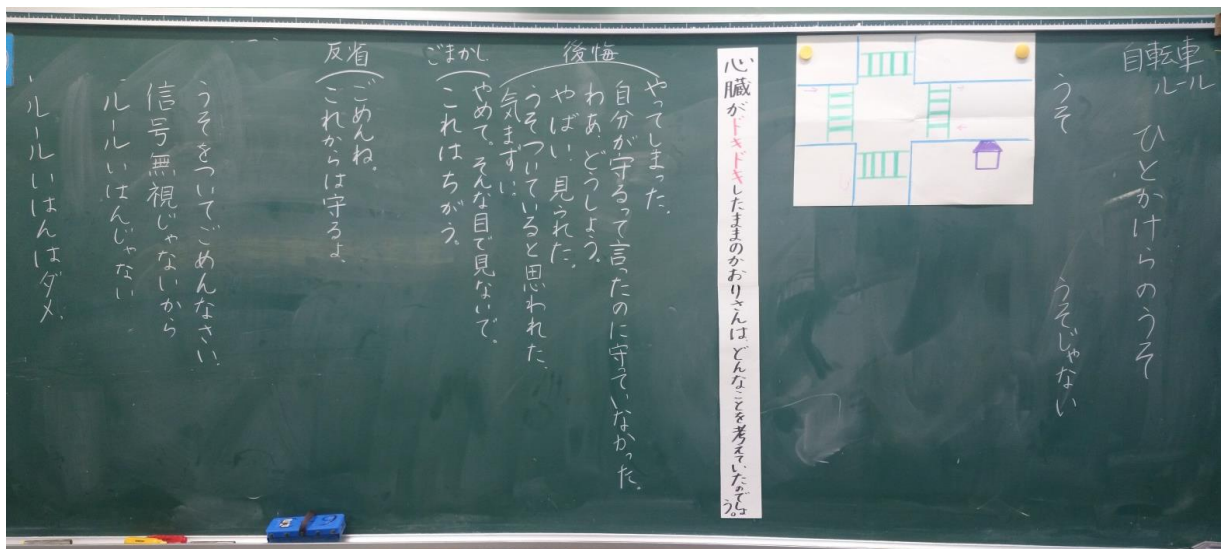
#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・ 自転車での横断歩道の渡り方（左側通行）について図を用いて簡単に説明した。それによって資料の内容を理解できた子どもがいた。「交通ルールを守ることって何だろう。」という発問で、子どもたちにルールについての意識の変化があったことを感じさせることができた。
- ・ 左側通行をしてはいけないことを初めて知った子どもが多く、戸惑いもあったが、「知らなかったのならやってもいい。」「やはりルール違反はよくない。」など様々な意見が出された。ルール違反をしたかおりを責めるのではなく、ルール違反をしたかおりの心の揺れとこれからの生き方を考えさせることで、友だちの意見を多様化し、人にはいろいろな考えがあって成長していくことを感じさせた。
- ・ 道徳の授業だけでなく、国語や社会の授業でも人の心の変化や動きについての発問を取り入れることで、友だちの意見を尊重することができたり、少数派ではあるが、自分の意見が友だちとは違っていても自信をもって発言したりすることもできてきた。
- ・ 始めと終わりに内容項目に迫るポイントを設定し、主人公の気持ちに迫りながら、自分自身の心の変化も感じることもできた。

#### ○成果と課題

- ・ たくさん意見を聞いてほしいと思ってどんどん意見を言う子どもと、ワークシートに意見は書いてあるが黙って聞いているだけの子どもがいる。ときどき全員に発表させたり、無作為に発表させたりすることで、全体的な発言力は高まってきた。しかし、まだまだ全員での話し合いはできていない。発言していなくても、「いろいろな人の意見が聞けて楽しい。」と感じている子どももいて、少しずつ道徳の学習のよさを引き出すことができていると感じる。
- ・ 年度当初、道徳の時間に発言していた子どもは限られていた。しかし、話し合いを何度か進めるうちに、様々な子どもが発表するようになってきた。「道徳は楽しい。」という子どももいて、今後も、道徳を通して自尊心を高めていきたい。

## ◆板書



◆評価に用いた資料サンプル (子どものワークシートなど)

○人それぞれに思うことば、守ることもわががた、  
 さんだけ、いろいろも、  
 ルールはルールなことで人に言うだけじゃなくて  
 自分もしっかり守ろうと思いました。

交通ルールは守らないと、自分いじめあ  
 ぶなくなったり、たに人にケガさせら  
 まったりするからかならず守らないとい  
 けないと思った。

しっかりルールやマナーを守ろうと思  
 いました。ルールやマナーは、命を守るもの  
 だとおわかりました。

人に注意して、自分ができてい  
 なかったら、自分もいやな気持ちに  
 なるし、相手もいやな気持ちに  
 なるから、人に注意にたので、自  
 分もちゃんとルールを守る。

・交通ルールは自分のためにも周りの人  
 のためにも守ることが重要。

みんな交通ルールがあるなん  
 で知らなか、たし、私は、約束どきな、  
 約束はしな、  
 交通ルールは、守る。  
 自分のために。

やっぱり、人に注意するのは確かに大事なけど  
 人に注意するからには自分が出来てないと  
 いけないと思いました。そうかないで、多回  
 主人公のように後悔してしまうと思ひます。

いろいろなところにルールが  
 たくさんかくせれているの下こ川がら  
 ルールを守って行動しようと思ひた。  
 人の気持ちや行動がわかる。

ほんの少し、ほんの一瞬だけという気持ちか  
 自分に甘いような気がしてだめだと思ひました。  
 小さなルールでも守らないと、けがたなったり  
 事故になたりすることもあるかもしれないから、  
 ルールを守ろうと思ひました。

しっかり、交通ルールを守らないと  
 自分があぶないから、自分い  
 ることは、がんばろうと思ひた。

「うそ」を言うと言った人は罪悪感があると思ひ  
 ルールはきちんと守ることが大切だと思ひ

交通を守らないとだめだし、もし他人の  
 けがかけしては、多回とて、多回とて、  
 交通を守ることが思ひた。

◆参考資料

○評価シート

組 名前 ( )

資料名 「 」

1. 主人公の気持ちになって、心の変化を感じることができたか。

できた                      まあまあ                      あまり                      できなかった

2. 重要ポイントでは、いろいろな考え方を理解できたか。

できた                      まあまあ                      あまり                      できなかった

3. 初めと終わりのテーマについて、自分自身の中でとらえ方に変化があったか。

できた                      まあまあ                      あまり                      できなかった

4. 振り返り

○自己評価結果

	できた	まあまあ	あまり	できなかった
1	21	15	1	0
2	15	17	5	0
3	19	15	2	1



## ◆実施学年（5年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

（場面）中心発問 （方法）ワークシート・話し合い・発言

（評価）かおりの気持ちを考えることを通して、きまりを守ることについて深く考えることができたか。

【実際】「この前男の子に注意したのに、自分はできていない。」という発言が出たので、「そのときどう思ったのか。」と追質問をすると、「自分がはずかしい。」「信用されない。」「かっこ悪い。」等の発言が出た。さらに、「自分がしていたことは、男の子がしていたことと同じだったことに気づいた。」という意見も出た。また、ワークシートから、「たった一つでも守れていなければ、守れていないことと一緒に。」や「自分にあまくしすぎた。」等、他人には注意をし、自分は…と反省する気持ちを考えたことがわかった。そして、自分もルールを守らなければいけないということを再認識した。

（場面）ふりかえり （方法）ワークシート・話し合い・発言

（評価）ルールやきまりを守ることについて深く考える。

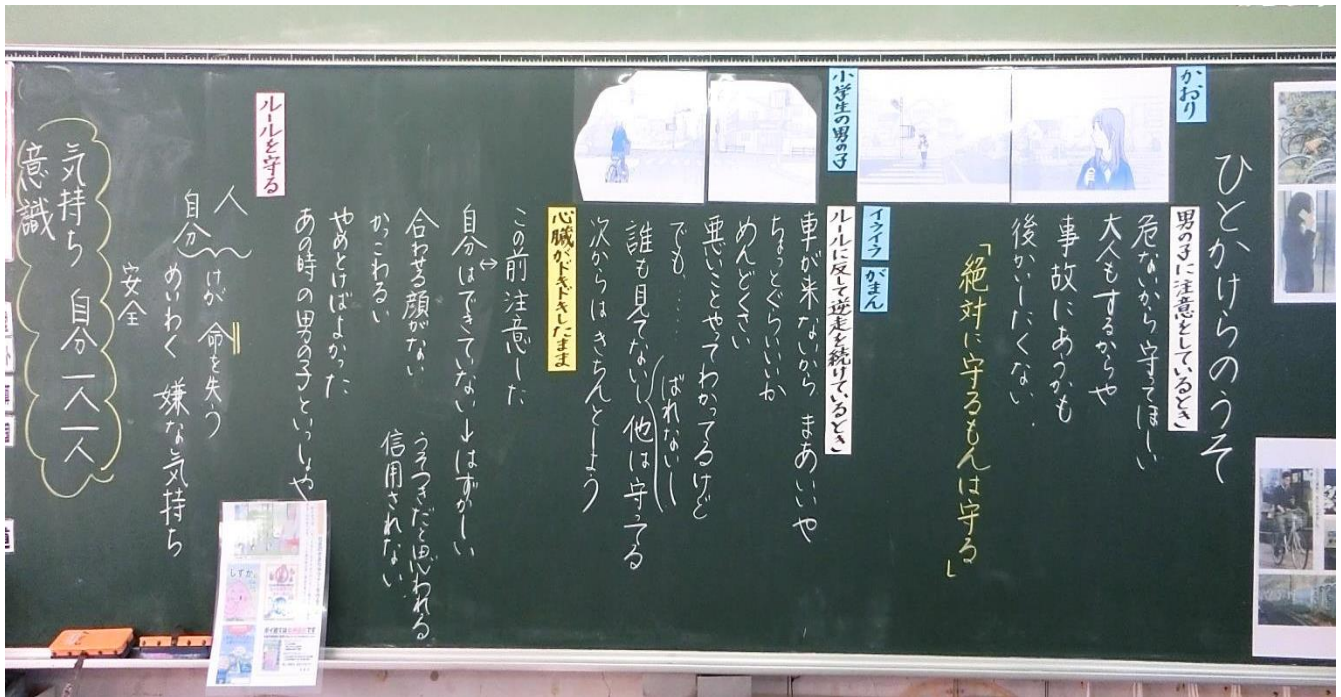
【実際】資料のように、ルールやきまりを守らないことは、悪いことであるとはわかっているが、「少しぐらい」という気持ちでルールを破ってしまった経験について共感した。そして、その後、ルールは何のためであって、なぜ、守るべきなのか、守るためにはどうすればよいのか、「ルールを守る」ことについて深く考えた。

- ・守らなかったら…人にめいわくをかける、危ない。命を失うこともある。  
守ったら…みんなが気持ちよくすごせる。安全で健康に生活できる。
- ・ルールは、人を守るためのもの
- ・「少しだけ」という気持ちを持っているのがいけない。
- ・おこられるから、じゃなくて自分のため、人のため
- ・一人ひとりが守ることが大事
- ・守ろうという強い気持ちを持つことが大事
- ・「まあ、いいか、少しだけ」という気持ちにならないように、自分で意識する。

#### ○成果と課題

誰の中にもある弱い心に負けてしまうことに気づき、改めてきまりを守ろうという気持ちを持つことができた。自分の生活の中で、弱い心に負けてしまった例を書き、どうしていききたいかを自分で考えて書いた子どももいた。このように、自分のこととして考えることができるように工夫していききたい。「ルールを守る」ことについて考えるこの部分が、子どもの考えをより深めるための大事な場面であるので、もっと時間をかけて話し合いをすればよかった。しかし、書くことによって、授業中は発言しない子どもの考えを知ることができたので、ワークシートは評価の方法としてはよかったように思う。

◆参考資料



実践校名 (阪南市立朝日小学校)